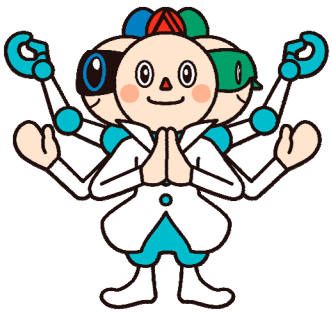
奈良先端科学技術大学院大学

環境報告書　2026





本学マスコット「ナスラ」

目次

1	トップメッセージ	2
2	編集方針　≪環境報告書の作成にあたって≫	3
3	環境方針　≪基本理念・基本方針≫	4
4	大学概要	5
5	エネルギー管理組織図	7
6	環境に関する教育・研究	8
7	環境パフォーマンス・地域連携等	9
	（1）環境マネジメントの考え方	9
	（2）事業活動のマテリアルバランス	10
	（3）エネルギーフロー	11
	（4）エネルギー使用特徴	12
	（5）エネルギー使用量の推移	13
	（6）事業系一般廃棄物の状況	14
	（7）産業廃棄物排出量の状況	15
	（8）新入学生への安全教育	16
	（9）有害物質の管理及び対応	17
	（10）グリーン購入・調達の状況	19
	（11）地域連携・企業連携などの取組	20
8	最近の省エネ取組事例	21
	（1）学内外向けwebでの電力使用状況の見える化	21
	（2）近年の主な省エネ関連工事	22

本学では環境に配慮するため紙媒体に代えて、電子データのみの公表と致します。

1. トップメッセージ



国立大学法人
奈良先端科学技術大学院大学

学長　塩崎　一裕

地球レベルの気候変動は、世界各地で報告される異常高温など次第に目に見える形で、現れつつあり、本学でもエネルギー使用量増加の一因となっています。2021年開催の国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）で掲げられた、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5℃に抑える目標の達成は危ぶまれており、2023年開催のCOP28では、パリ協定で採択されたグローバル・ストックテイク（GST）と呼ばれる気候変動対策の進捗状況の評価が実施されました。これは、1.5℃目標に向けて、各国が定めた温室効果ガスの削減目標に対してその進捗状況を評価し、改善策を見出すことを目的としたものです。長期的な気候変動やそれに伴う様々な自然環境の変化は、世界市民の誰もが大きな影響を受ける可能性があり、私たち自身が環境負荷軽減の主役になることが求められます。

2021年4月の学長就任に際して策定した「学長ビジョン2030」では、SDGsや2050年カーボンニュートラルなどの社会的課題の解決に向けたイノベーションの創出をこれからの本学の目標のひとつとして掲げています。この目標に向けて設置されたデジタルグリーンイノベーションセンターでは、本学が世界に誇る植物バイオや微生物研究とデジタル情報技術・デジタルI/O技術を融合させた、次世代のグリーン科学技術によって、環境・食料問題の解決及びSDGsに貢献することを目指しています。加えて、本学は2021年7月設立の「カーボンニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に参加し、温室効果ガス削減に向けた連携強化を進めています。

このような教育研究活動と並行して、本学は大学全体の環境負荷の低減にも取り組んでいます。本報告書は、エネルギー使用量の削減、CO2排出の抑制、及びこれらに関連した学内啓発活動など、本学の2025年度の環境問題への取組を紹介し、「持続可能な社会」の実現に向けての本学の理念と活動状況をご報告するものです。

本報告書を是非ご一読いただき、本学の活動にさらなるご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和8年8月

2. 編集方針

≪環境報告書の作成にあたって≫

この環境報告書は、本学のキャンパスにおける2025年4月から2026年3月までの1年間の環境に関する事項を取りまとめ「奈良先端科学技術大学院大学環境報告書2026」として公表するものです。

対象組織

国立大学法人　奈良先端科学技術大学院大学

対象範囲

奈良先端科学技術大学院大学　生駒キャンパス

対象年度

令和7年度（2025年4月～2026年3月）

発行日

令和8年9月

作成部署

国立大学法人　奈良先端科学技術大学院大学
管理部　施設課

連絡先

奈良先端科学技術大学院大学　管理部　施設課
〒630－0192　　奈良県生駒市高山町8916－19
TEL　　0743－72－5052

URL

https://www.naist.jp/corporate/facilities/kankyou2026.pdf

参考にしたガイドライン

「環境報告ガイドライン（2018年版）」（平成30年6月環境省発行）
「環境報告書の記載事項等の手引き（第3版）」（平成26年5月環境省発行）

3. 環境方針

基本理念

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学は、世界に認知された教育研究拠点として、世界に開かれた教育研究環境の下、次代に貢献する最先端の科学技術研究を推進するとともに、その成果に基づく高度な教育により人材を養成し、もって科学技術の進歩と持続的で健全な社会の形成に貢献することを使命とする。

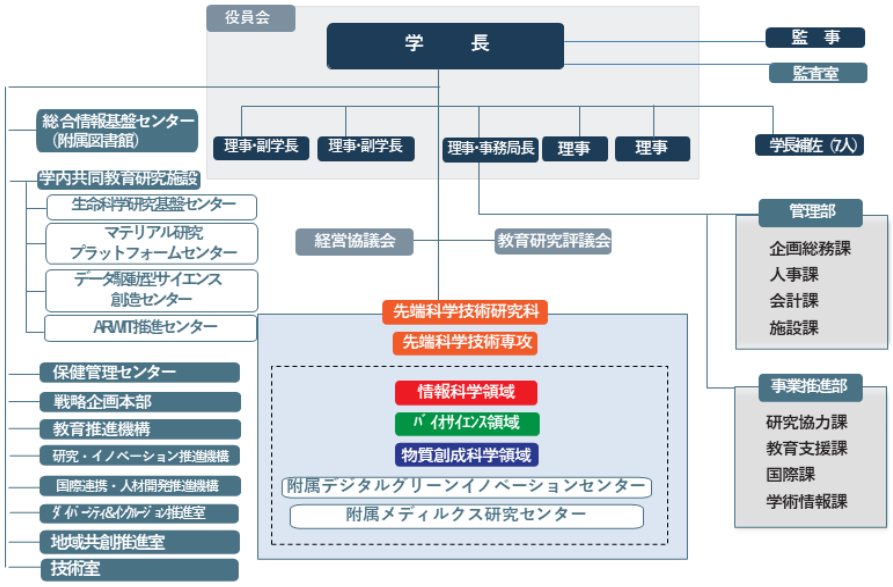
我々は、この使命を達成するために、次代の社会を創造する研究結果を創出するとともに周囲の豊かな自然環境を損なうことなく教育研究活動を行う。また、環境問題に対する高い意識を持った研究者・技術者を養成する。

基本方針

1	世界をリードする最先端の研究を推進し、地球環境の保全・改善を含めた、持続的で健全な社会の形成に貢献するとともに、人材育成においても、環境問題に対する高い意識を涵養する。
2	国立大学法人として、各種法令を遵守した適切な法人運営を行うためのコンプライアンスマネジメントシステムを構築する。特に、本学が立地する地元地域との協定を遵守し、教育研究活動に伴う環境負荷の低減を図り、地域の環境保全に貢献する。
3	国立大学法人として、教育研究活動に伴う光熱水量等の効率的に利用し、温室効果ガス排出量の削減を図る。また、地球の環境問題に貢献できる環境マネジメントを実践し、その成果を公表する。

4. 大学概要

組織図



構成人数　（令和8年5月１日現在）
教職員　　374　人／学生　　1,236　人

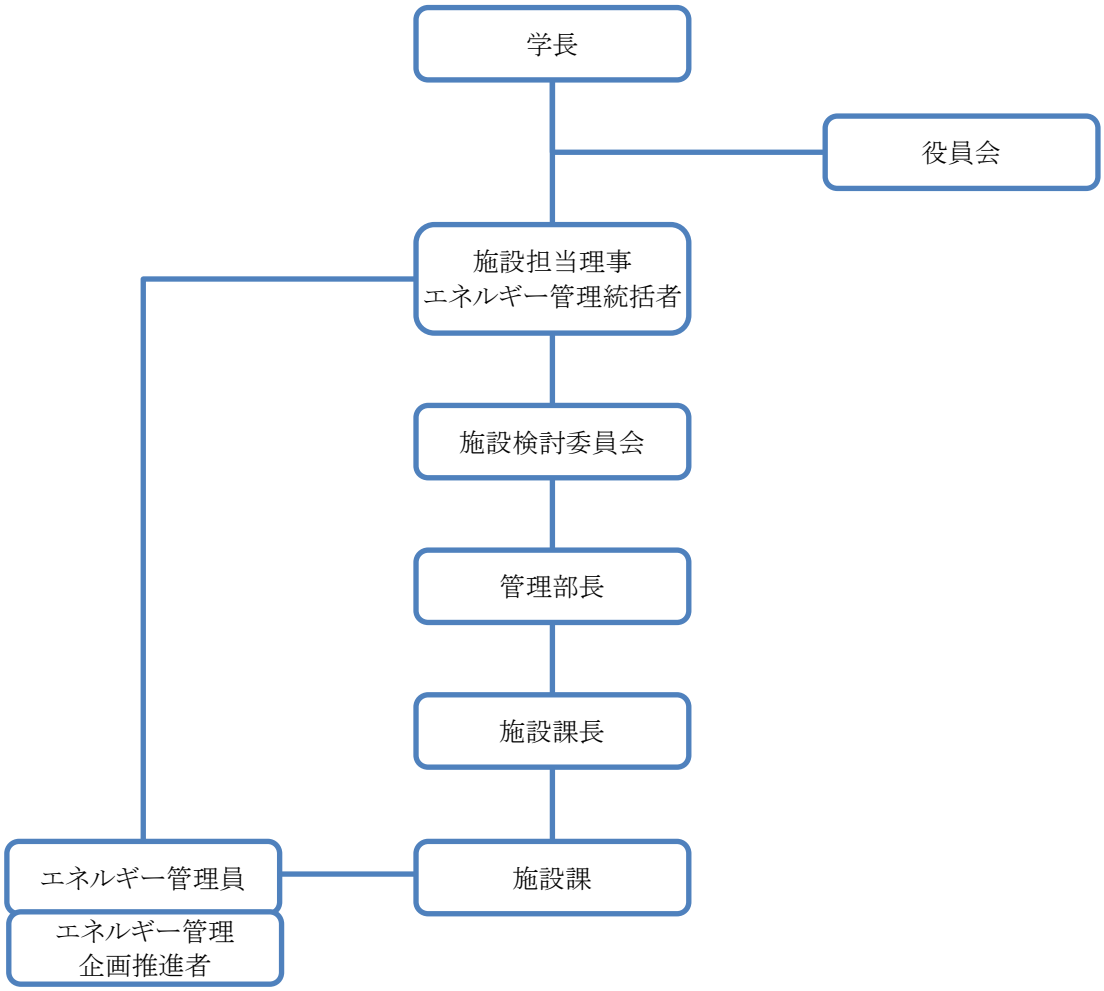
沿革

年　月	事　項
平成 3年10月	奈良先端科学技術大学院大学設置 情報科学研究科設置 附属図書館設置
平成 4年 4月	バイオサイエンス研究科設置 情報科学センター設置
平成 5年 4月	遺伝子教育研究センター設置 情報科学研究科（博士前期課程）第1期生受入れ
平成 6年 4月	バイオサイエンス研究科（博士前期課程）第1期生受入れ
平成 6年 6月	先端科学技術研究調査センター設置
平成 7年 4月	情報科学研究科（博士後期課程）第1期生受入れ 保健管理センター設置
平成 8年 4月	バイオサイエンス研究科（博士後期課程）第1期生受入れ
平成 8年 5月	物質創成科学研究科設置
平成9年2月	施設長期計画書提出
平成10年 4月	物質創成科学研究科（博士前期課程）第1期生受入れ 物質科学教育研究センター設置
平成12年 4月	物質創成科学研究科（博士後期課程）第1期生受入れ
平成14年 4月	情報科学研究科情報生命科学専攻設置・学生受入れ

年　月	事　項
平成15年 10月	知的財産本部設置
平成16年 4月	国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学設立 産官学連携推進本部設置
平成21年 9月	男女共同参画室設置
平成21年12月	国際連携推進本部設置
平成22年 7月	総合情報基盤センター設置（附属図書館・情報科学センター・学術情報課を統合）
平成22年 8月	先端科学技術研究推進センター設置（先端科学技術研究調査センターを改組）
平成23年 4月	情報科学研究科情報科学専攻設置・学生受入れ バイオサイエンス研究科バイオサイエンス専攻設置・学生受入れ
平成25年 4月	キャリア支援室設置
平成25年10月	研究戦略機構設置
平成27年 4月	戦略企画本部設置 教育推進機構設置（国際連携推進本部・キャリア支援室を統合） 研究推進機構設置（先端科学技術研究推進センター・産官学連携推進本部を統合の上、研究戦略機構を改組）
平成29年 4月	データ駆動型サイエンス創造センター設置
平成30年 4月	先端科学技術研究科先端科学技術専攻設置・学生受入れ（情報科学研究科・バイオサイエンス研究科・物質創成科学研究科を統合）
令和 3年 1月	デジタルグリーンイノベーションセンター設置
令和 3年 4月	地域共創推進室設置
令和 5年 1月	マテリアルプラットフォーム研究センター設置 （物質科学教育研究センターを改組） 生物科学研究基盤センター設置 （遺伝子教育研究センターを改組）
令和 5年 4月	技術室設置
令和 6年 4月	先端科学技術研究科附属デジタルグリーンイノベーションセンター設置 （デジタルグリーンイノベーションセンターを改組） ダイバーシティ&インクルージョン推進室設置（男女共同参画室を改組） 先端科学技術研究科附属メディルクス研究センター設置 留学生・外国人研究者支援室設置
令和 7年 10月	研究・イノベーション推進機構設置（研究推進機構を改組） 国際連携・人材開発推進機構設置
令和 8年 1月	ARWIT推進センター設置

5. エネルギー管理組織図

エネルギー管理組織図



省エネルギーの推進に向けた活動は下記の事項を実施する。

- 月別のエネルギー使用実績と目標の対比ならびに問題点の抽出と対策の検討
- 時系列的なエネルギー使用状況の把握と改善策の検討
- 省エネルギーに関する設備の改廃の検討
- 学内web上にエネルギー月次レポートを掲載する
- 上記に係る報告の実施

6. 環境に関する教育・研究

本学では、環境方針において「次代の社会を創造する研究結果を創出するとともに周囲の豊かな自然環境を損なうことなく教育研究活動を行う。また、環境問題に対する高い意識を持った研究者・技術者を養成する。」ことを掲げ、環境教育・研究を進めています。このような取組を行う研究室を誌面の都合上一部となりますが紹介いたします。

植物共生学研究室

教授：吉田　聡子
助教：若竹　崇雅、平田　梨佳子

研究・教育の概要

動けない植物は、様々な生物と共生することで自身の生育に必要な栄養分を吸収する手段を身につけてきました。中でも、究極の進化を遂げたものが寄生植物です。他の植物に寄生して、栄養分をもらって生活します。いくつかの寄生植物は、穀物や野菜に寄生し甚大な農業被害をもたらすため、世界中で問題になっています。当研究室では、特に被害の大きいハマウツボ科寄生植物に着目し、寄生の分子メカニズムの解明に取り組んでいます。病害寄生雑種ストライガとモデル寄生植物コシオガマを研究材料に（図１）、分子遺伝学、細胞生物学、ゲノム科学的手法を駆使して寄生の進化の謎を解き、寄生雑草による農業被害の解決策を探ります。

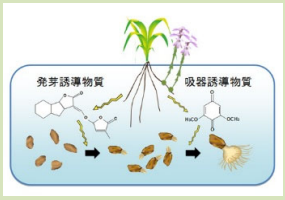
主な研究テーマ

①寄生器官「吸器」はどうやってできるのか？

宿主植物の根に近づいた寄生植物は、自身の根に吸器を発達させ、宿主の根に侵入し、導管をつなげて宿主から水や栄養を奪います。吸器は寄生植物が独自に進化させた器官で、絶対寄生植物は主根の先端を、条件的寄生植物は根の側部の細胞を分化させることによって形成されます。私達は、条件的寄生植物でコシオガマの変異体ラインを整備し、吸器形成に異常がある変異体を単離しました。次世代シーケンサーを用いて変異体ゲノムを解析することによって、変異体原因遺伝子を同定し、その遺伝子の機能解析をおこなっています。また、ストライガとコシオガマのトランスクリプトームから、吸器形成時に発現する遺伝子を単離し、逆遺伝学的な手法から吸器形成に関わる遺伝子の単離を目指しています。



【図１　ハマウツボ科寄生植物とその進化】



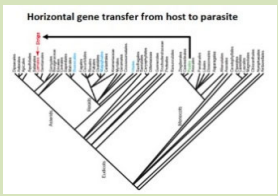
②寄生植物の吸器誘導物質の探索

寄生植物は宿主植物から分泌された低分子化合物を認識して寄生を成立させます。絶対寄生植物ストライガは、植物の枝分かれ制御や相利共生菌の活性化をする植物ホルモン・ストリゴラクトンを認識し発芽します。一方で、吸器の形成は、植物の細胞壁成分の酸化によって生じるキノンであるDMBQ(2,6-dimethoxy-p-benzoquinone)によって誘導されることが知られています。しかし、DMBQがどのように生産され、どのように受容されるのかについてはほとんど分かっていません。また、DMBQ以外にも吸器を誘導できる化合物が知られており、宿主から分泌される吸器誘導物質の実態は明らかではありません。DMBQに応答しない変異体の解析やケミカルジェネティクスの手法を用いて、吸器誘導物質の実態を明らかにします。

【図2　宿主とストライガの根菌におけるケミカルコミュニケーション】

③寄生植物ゲノムはどう進化したか？

近年の次世代シーケンス技術革新をうけて、植物ゲノムの解読はより身近なものになってきました。私達は、ストライガとコシオガマの全ゲノムシーケンスをおこない、寄生植物ゲノムの特徴を調べました。寄生植物は水平伝播によって宿主から遺伝子をもらっていること、ストリゴラクトン受容体遺伝子が重複していることなど、様々なことが分かってきました。どうやって植物は新しい遺伝子を得て、増やし、新しい形質を獲得するのか？アフリカの野外で生えているストライガのゲノムはどうなっている？バイオインフォマティクスを用いてゲノムの変遷を解析します。



【図3　宿主（イネ科植物）からストライガへの遺伝子の水平伝播】

ナノ高分子材料研究室

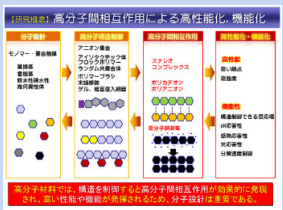
教授：網代　広治
准教授：安藤　剛
助教：チャンタセ　ナリンティップ、以倉　崚平

研究室について

当研究室では、「分子技術」の概念と「精密重合」を駆使して、 様々な高分子材料を創ります。特に、超高齢社会に対する医療材料 や、次世代のエネルギー関連材料・環境調和材料に着目しています。

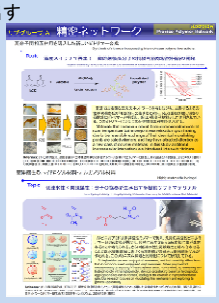
研究概念

高分子材料では、構造を制御すると、高分子間相互作用が効果的に発現して高い性能や機能が発揮されます。そのため高分子材料では、「分子設計」「高分子構造制御」「高分子間相互作用」「高性能化・機能化」という４つのステージが重要です。本研究室では、分子レベルでモノマーを設計し、高分子合成およびナノ構造制御を通じて、機能性高分子材料の創出を行います。

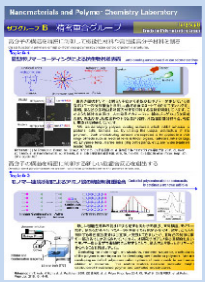


サブグループ

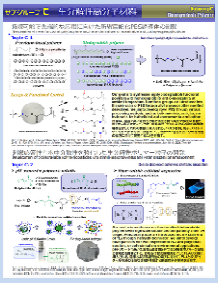
（A）精密ネットワーク
分子設計に基づき、精密な三次元構造により新しい高分子材料を産み出す



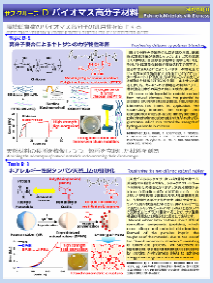
（B）精密重合グループ
高分子の構造を精密に制御して機能性材料や高性能高分子材料を創



（C）生分解性高分子材料グループ
複機能性高分子によって医療療バイオマテリアルを創出する



（D）バイオマス高分子材料
天然由来高分子で作り出す"意外性のある"新材料を創出する



7. 環境パフォーマンス・地域連携等

（１）環境マネジメントの考え方

奈良先端科学技術大学院大学は、環境方針（基本理念、基本方針）を定めています。その基本方針の一つに率先垂範としての環境保全活動の推進を図るため、次の項目に関して積極的に取り組みます。

１ 温室効果ガスその他の環境負荷の低減

「地球温暖化対策の推進に関する法律」及び「パリ協定を踏まえた地球温暖化対策の取組方針について」に基づき策定された「地球温暖化対策計画」に掲げられた目標等の実現に向けた取組を積極的に実行すること。

汚染物質の排出を制限する各種環境法規を遵守することはもとより、その他の実施可能な活動を通じ、大学におけるエネルギー消費の使用に伴って発生する二酸化炭素、その他の汚染物質の負荷量を削減していきます。

２ ３Ｒの取組の推進

「循環型社会形成推進基本法」の趣旨に基づき、物品の使用を合理化するなど、リデュース、リユース、リサイクル（ ３Ｒ ）を進め、資源の消費量を減らすとともに、廃棄物を積極的に削減していきます。

３ グリーン調達の推進

物品やサービスの調達については、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」の趣旨に基づき、環境負荷の少ない物品等を積極的に選択し、グリーン調達を進めます。

４ 環境に配慮した契約の推進

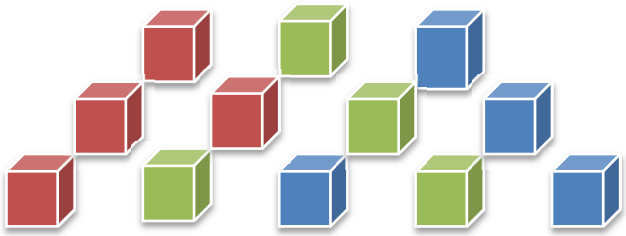
物品・役務等の契約については、「国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律」の趣旨に基づき、価格等を含め総合的にみて環境性能を有する物品・役務等を供給する者を契約相手とすることとします。

５ 環境情報の開示

環境マネジメントシステム及び環境パフォーマンスに関する情報を分かりやすく取りまとめ、開示します。

（2） 事業活動のマテリアルバランス

奈良先端科学技術大学院大学の事業活動のマテリアルバランスについて、下記のように示しています。
【インプット】:エネルギー投入量(電気・ガス・上水・重油)
【アウトプット】:エネルギー起源CO2排出量と廃棄物排出量



奈良先端科学技術大学院大学
の教育・研究活動

INPUT

『エネルギー投入量』

電力	16,297 千kwh
都市ガス	116 千㎥
上水	28 千㎥
重油	3 ㎥

OUTPUT

『エネルギー起源CO_2排出量』
7,013 t-CO2

『廃棄物排出量』

一般廃棄物	87 t
産業廃棄物	71 t
実験排水量	12 千㎥



（3） エネルギーフロー

【電気】
電気供給会社
（入札契約）

22kV×2系統



6.6kV



6.6kV

太陽光



200V
情　　報/80kW
物　　質/50kW
大学会館/50kW
事 務 局/20kW



【A重油】30

重油タンク
情報/13,000L

重油タンク
情 報 B/12,000L　動 物/4,000L
バイオC/ 4,000L　物質E/4,000L
バイオD/ 7,000L　物質F/4,000L



6.6kV
情報/750kVA



200V
情　報B/625VA　動 物/200kVA
バイオC/225kVA　物質E/225kVA
バイオD/420kVA　物質F/225kVA

【都市ガス】
大阪ガス㈱

低圧300φ
校舎等
使用分
（学宿1～5含）

低圧150φ
学生宿舎
使用分
学宿6～8棟

※学宿9棟はオール電化

【水道】
生駒市

100A

200A

50A

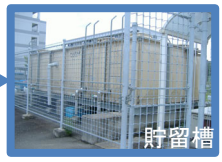








【井水・雨水】



散水等に
利用

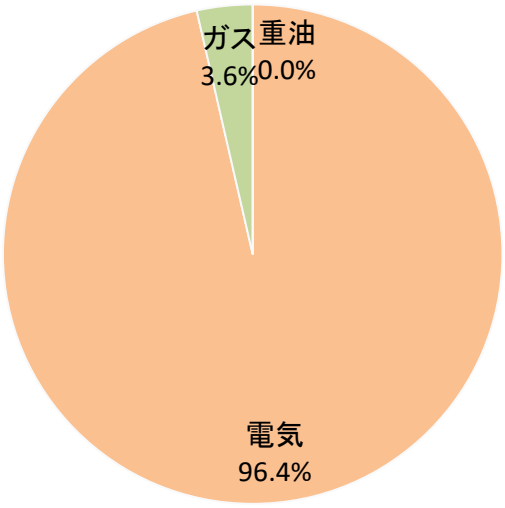
2次電気室×14室
機械室×9室
を経由し、各建物へ
エネルギー供給



（4） エネルギー使用特徴

エネルギー内訳

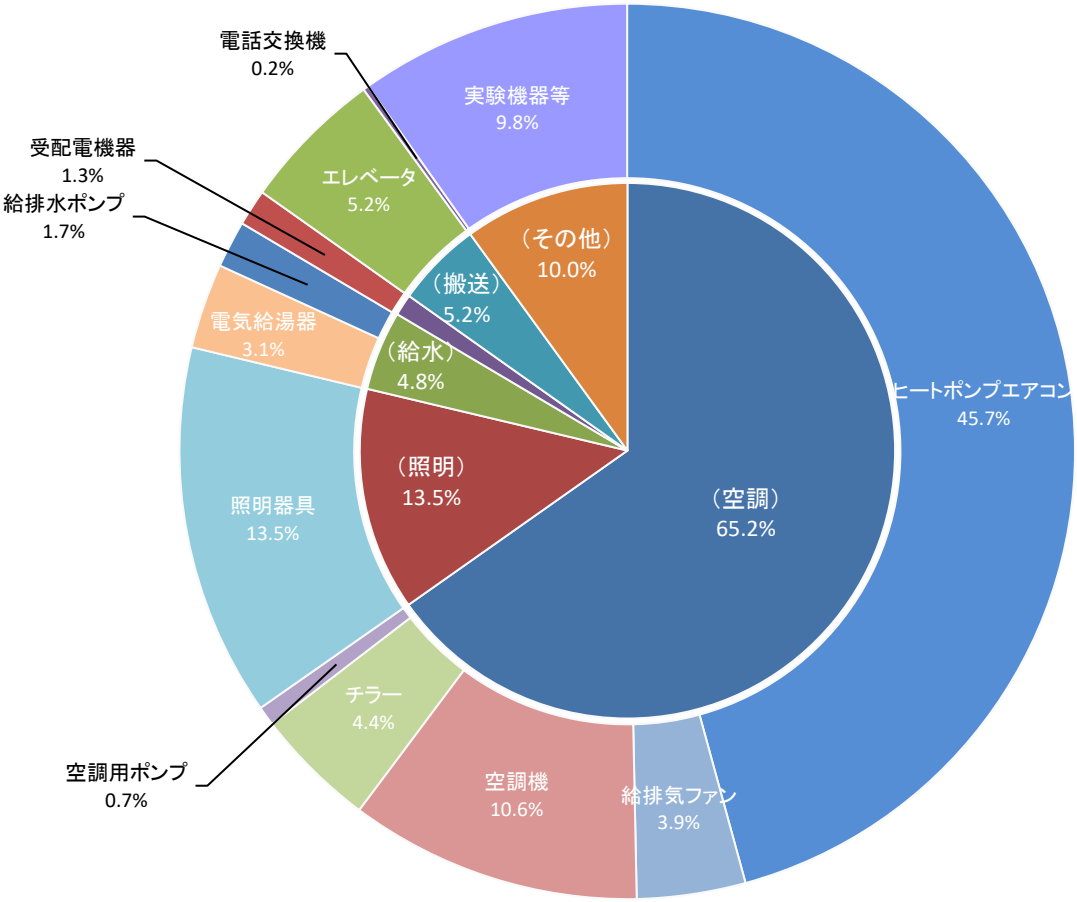
奈良先端科学技術大学院大学では使用エネルギーは電力とガスを使用しています。特徴としては、96.4%を電力負荷が占めているのが現状です。



エネルギー消費の96.4%が電気を使用している。

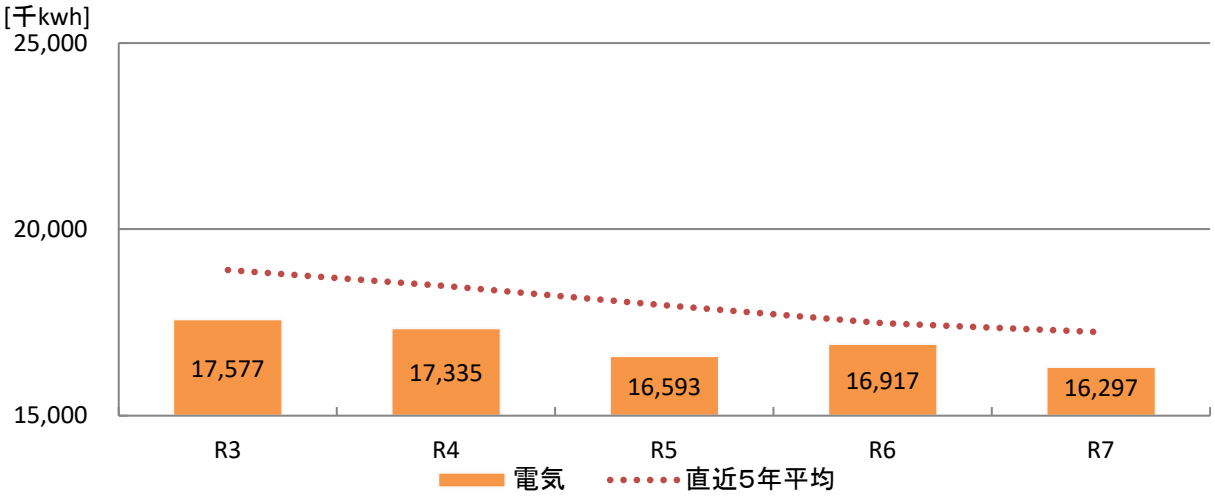
電力使用目的別内訳

電力の消費別内訳としては、空調関係が65.3%、照明が13.5%を使用している。

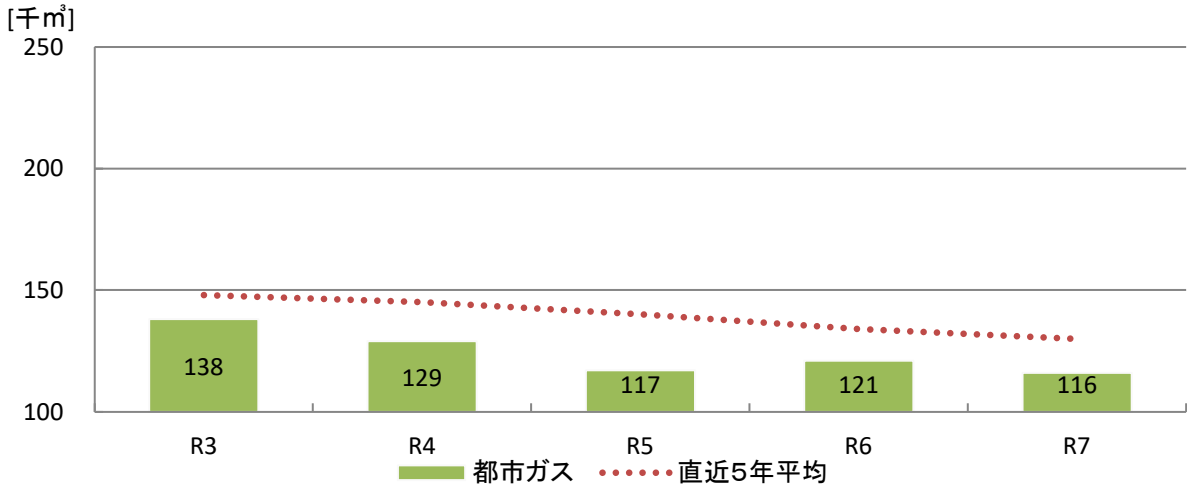


（5） エネルギー使用量の推移

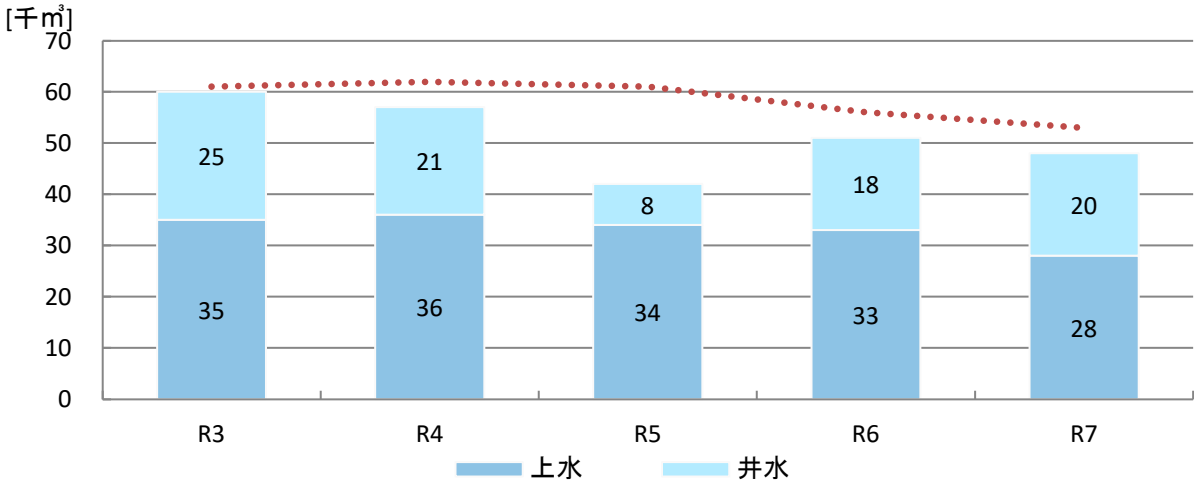
電気



ガス



水道

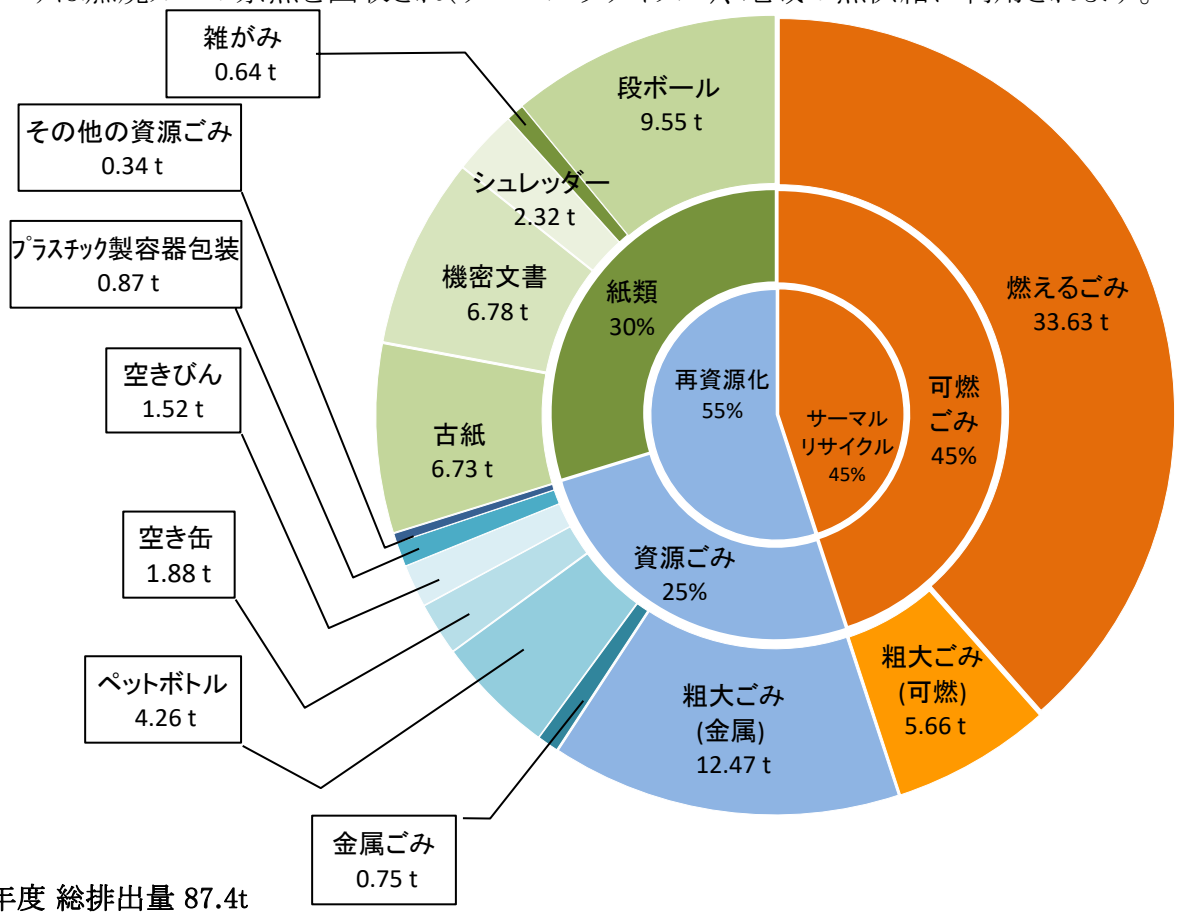


※井水は散水や修景水に使用している。
※R5年度の井水使用量減少は、井戸ポンプ故障による稼働日数減によるものです。

（6） 事業系一般廃棄物の状況

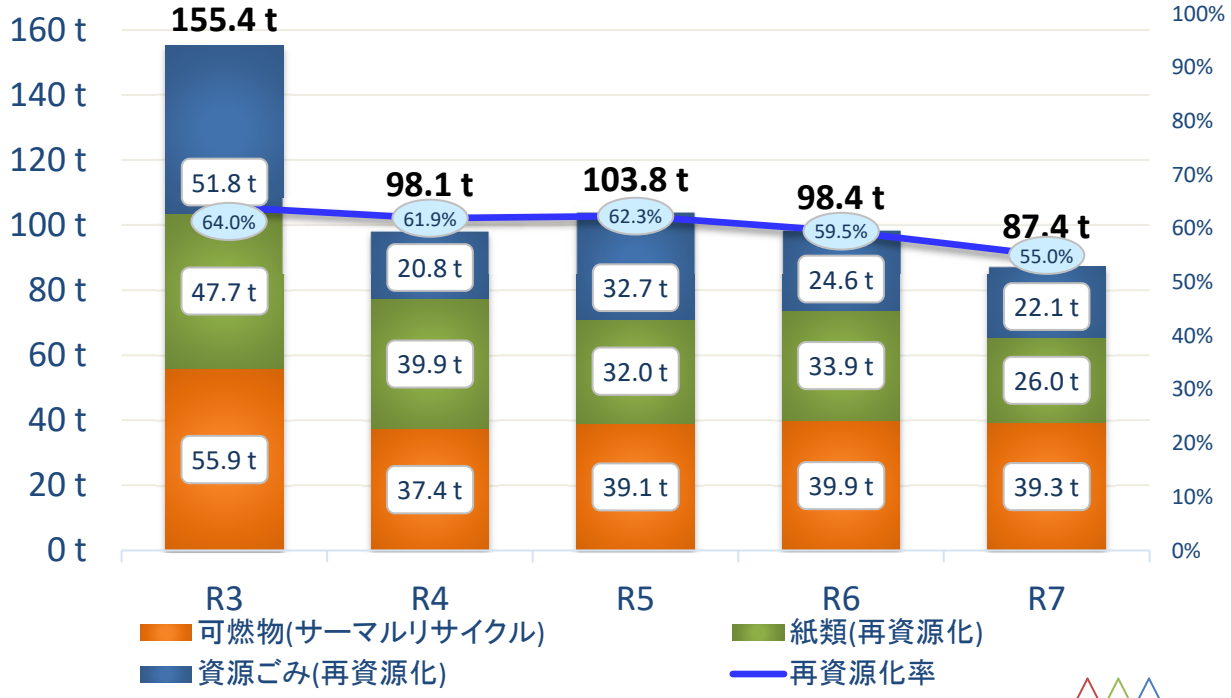
一般廃棄物排出量の内訳

外部契約している生駒市の許可業者にて、再資源化ごみは全て再資源化を行い、可燃ごみは燃焼ガスの余熱を回収され(サーマルリサイクル)、地域の熱供給に利用されます。



R7年度 総排出量 87.4t

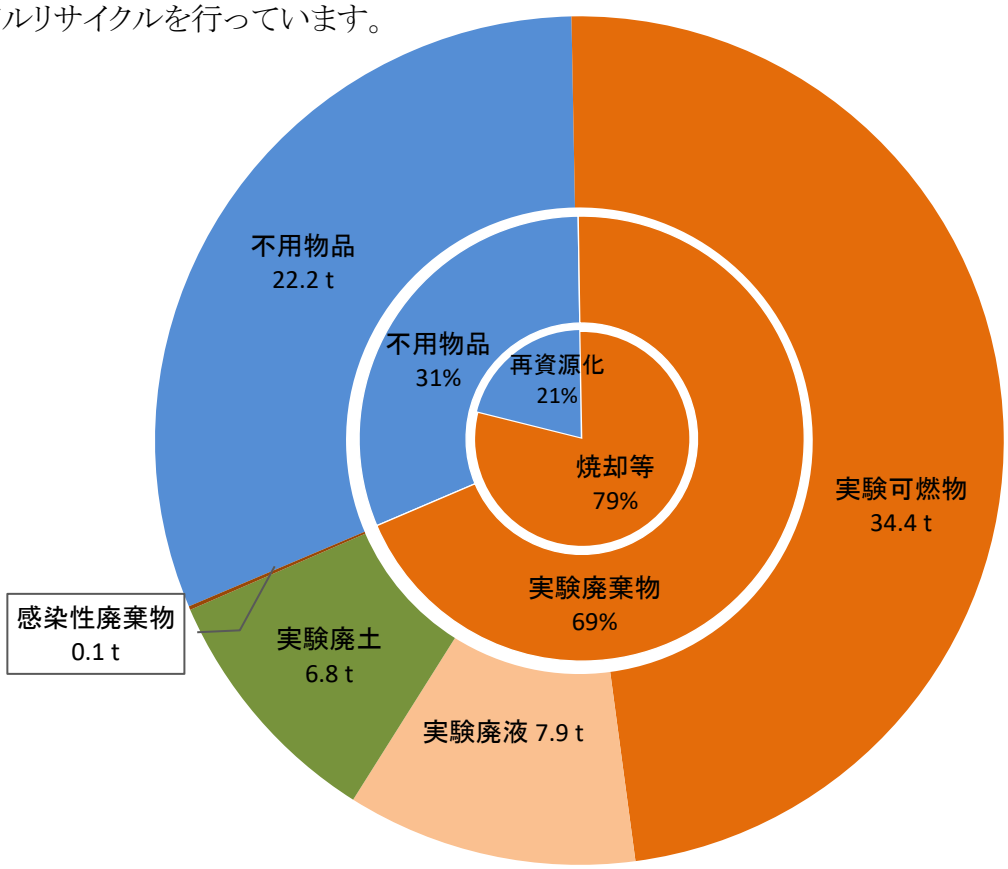
一般廃棄物排出量の推移



（7） 産業廃棄物排出量の状況

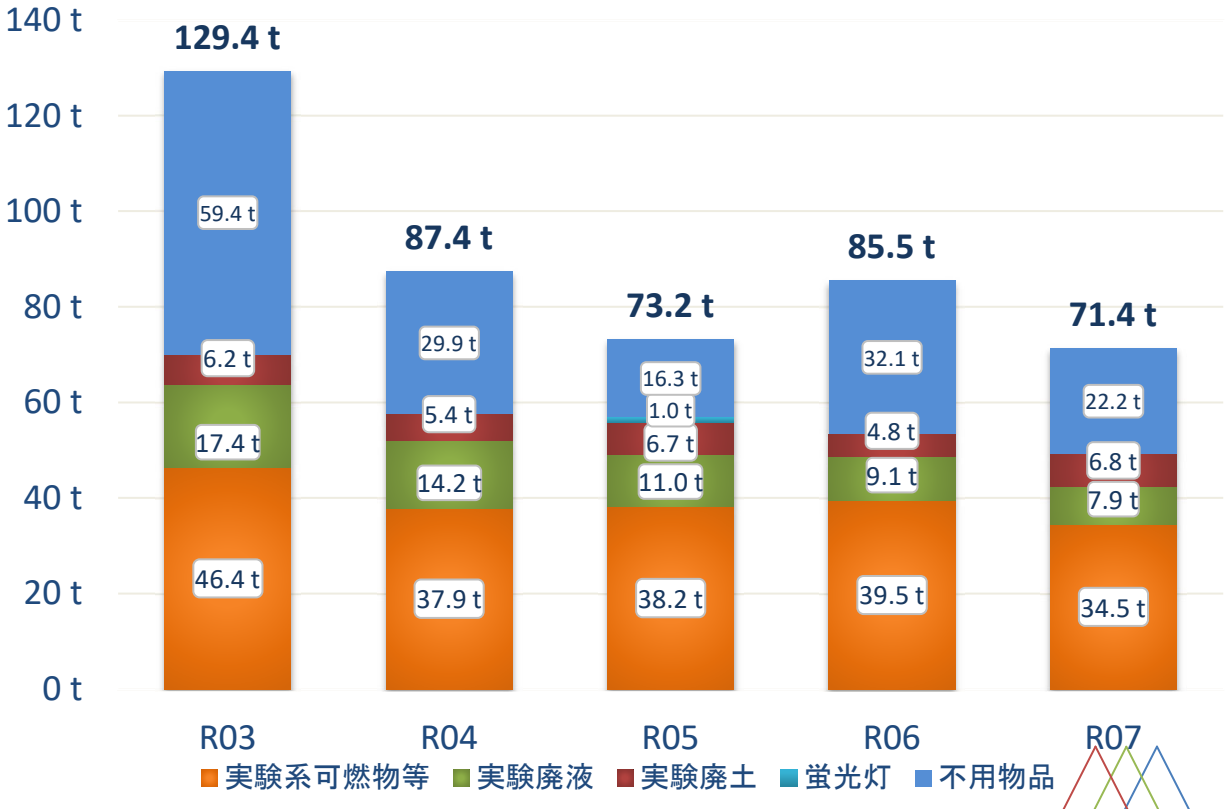
産業廃棄物排出量の内訳

外部契約業者にて、不用物品は手選別分解を行い、小品目ごとに分類され、可能な限りマテリアルリサイクルを行っています。



R7年度総排出量 71.4t

産業廃棄物排出量の推移



（8） 新入学生への安全教育

本学では、情報科学、バイオサイエンス、物質創成科学の3分野とそれらの融合・境界領域に特化した先端科学・技術に係わる高度な教育・研究を推進しています。
先端科学・技術分野の研究は、常に新しいことへの挑戦であり、一定のリスクが潜んでいることは避けがたい事実で、事案によっては環境に対して何らかの影響を及ぼす可能性があることも否定できません。そのため国により実験等の実施についての指針が定められています。
こうした点を徹底するために、本学では、以下のとおり新入学生を対象とした安全教育プログラムの実施に積極的に取り組んでいます。
また、新入学生に対して、本学総合安全衛生管理委員会が発行している「安全の手引き（共通編）」・「安全の手引き（実験編）」をHP上で公開し、日常生活から実験等の研究生活まであらゆる場面において活用してもらうようにしています。

新入学生対象の安全教育プログラム

1 基本的な安全について

本学の安全管理体制、環境保全と安全に関する実験指針等（環境保全に関する関係法令、地元生駒市との環境保全協定等）、及びその他安全確保にかかる基本的事項に関する導入教育を行います。

2 物理・化学実験の安全について

危険物、有毒・有害物質の取扱い、化学物質管理の方法（国際規制物質や麻薬等の規制物質も含む。）、及び環境に配慮した実験廃棄物の処理方法（廃液処理も含む）について解説を行います。

3 生物実験の安全について

遺伝子組換え実験等にかかる安全確保の基本的な考え方（環境中への拡散防止措置等）、及び廃棄物の安全な処理方法について解説を行います。

4 エックス線・放射線関係の安全教育について

エックス線装置使用予定者、放射線施設利用予定者に対しては、エックス線・放射線障害防止（放射線等が環境に及ぼしうる影響も含む）に関する講義・実習を実施しています。また、外国人留学生には、英語による講義等を実施しています。

5 情報ネットワークガイダンス

情報社会でのモラル、及び本学の情報ネットワーク（曼陀羅ネットワーク）を安全・安心に活用するために定められたルールの解説を行います。

上記の他、研究内容に応じ、更に領域ごとの専門に特化した安全教育に取組むなど、安全確保と環境保全のために万全を期しています。



写真は入学時・雇入時安全教育の授業アーカイブ映像

（9） 有害物質の管理及び対応

実験排水

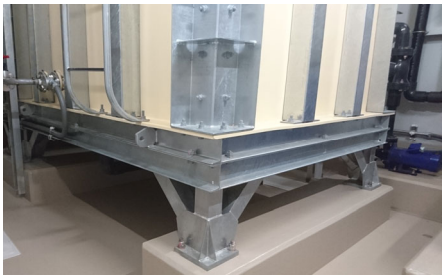
奈良先端科学技術大学院大学が環境に与える負荷のひとつに実験室から排出される実験排水があります。
公共下水道に流すことのできる水質の基準は「排水基準」と呼ばれ、下水道法及び生駒市下水道条例で定められています。本学では定められた排水基準を遵守するため、排水経路中にモニター設備を設け２４時間常時監視しています。
モニター設備は、建築後２７年経過した実験排水モニター施設内(地下)に収められていましたが、実験排水の漏洩管理の強化のため実験排水モニター施設を地上に新築し、令和３年４月から運用しています。



バイオサイエンスＣ棟西側
実験排水モニター施設



内部では２４時間排水に異常がないか監視しています。





実験排水貯留槽や配管を更新。点検が容易となり、実験排水の漏洩管理を強化しました。

PRTRへの対応、廃液処理

特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(以下「化管法」という。)により制度化されたPRTR制度(Pollutant Release and Transfer Register (化学物質排出移動量届出制度) の略)で、人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境(大気、水、土壌)へ排出される量及び廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を、事業者が自ら把握し国に届け出をし、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計・公表する制度です。平成13年4月から実施されています。

本学では薬品管理システムの導入により、薬品の使用量及び保有量を把握しています。第一種指定化学物質の年間取扱量(※1)が1トン以上、または、特定第一種指定化学物質は0.5トン以上になると、行政機関への報告義務が発生します。

令和7年度において、本学ではクロロホルム、ジクロロメタン、ヘキサンが該当しているため、化管法第5条第2項の規定により経済産業大臣に提出しています。

※1本学では取扱量＝使用量

	排出量 (大気:気体)	移動量 (使用済廃棄:液体)
クロロホルム	180 kg	1,000 kg
ジクロロメタン	240 kg	850 kg
ヘキサン	210 kg	1,200 kg

廃液処理

本学では研究科内(バイオサイエンス領域及び物質創成科学領域)で排出された実験用薬品等の廃液を一括して回収し、産業廃棄物として処分(外部委託)しています。



廃液保管庫
(物質創成科学棟南側)



廃液保管状況

（10） グリーン購入・調達の状況

平成13年4月から「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（グリーン購入法）」が施行されました。この法律は、国等による環境物品等の調達の推進、情報の提供その他環境物品等への需要転換を促進するために必要な事項を定め、環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築を図り、もって現在及び将来の国民の健康と文化的な生活の確保に寄与することを目的に、国等の機関が率先して環境に優しい物品などを積極的に購入していくことを定めたものです。

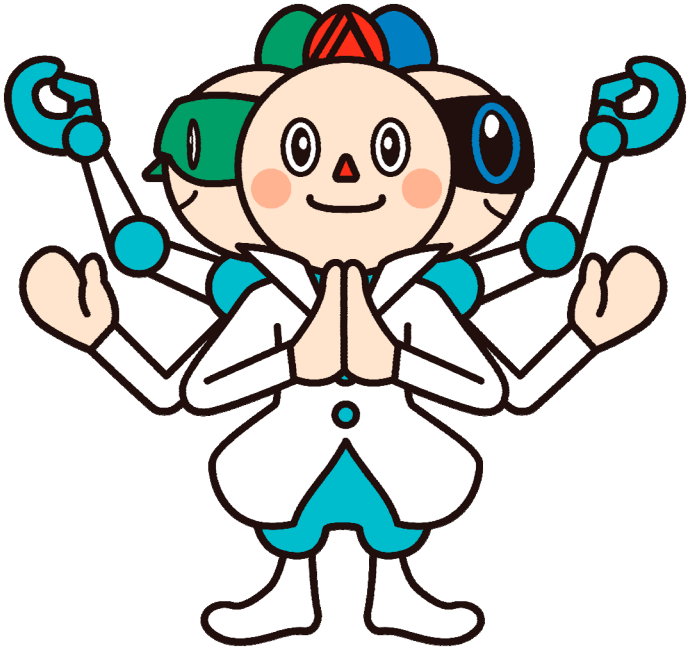
また、この法律に基づき本学では毎年度、環境物品等の調達に関する方針を作成し、この方針に基づいた物品等の調達を行い、その実績を公表し環境省及び文部科学省に報告しています。

目標達成状況等

本学ではグリーン購入法基本方針(22分野288品目：令和7年1月28日)について100%の調達実績となっており、主な7分野についての調達実績を下表に示します。

分野	品目	総調達量	特定調達物品調達量	特定調達物品調達率
紙類	コピー用紙等	5,850 kg	5,850 kg	100%
	トイレットペーパー	2,136 kg	2,136 kg	100%
文具類	ファイル	1,730 冊	1,730 冊	100%
	事務用封筒	2,000 枚	2,000 枚	100%
オフィス家具類	いす	39 脚	39 脚	100%
OA機器	電子計算機	358 台	358 台	100%
照明	LED照明・LED電球	7 台	7 台	100%
消火器	消火器	1 本	1 本	100%
役務	印刷	40 件	40 件	100%
平均				100%

令和7年度集計



（11） 地域連携・企業連携などの取組

今年度は2025年度に行われた内容の報告を行います。

デジタルグリーンイノベーションセンターの活動

SDGs×CDGセミナー特別企画「酒ならシンポ～奈良から始まる未来の酒造り」
（2025年9月29日（月） 奈良交通バスターミナルレクチャーホール） Website: https://cdgw3.naist.jp/1414/

2025年9月29日（月）、SDGs×CDGセミナー特別企画「酒ならシンポ～奈良から始まる未来の酒造り～」を奈良公園バスターミナルレクチャーホールにて開催いたしました。5名の講師から、奈良からはじまった清酒造りについて、最新の研究成果に加え、産業振興、里山保全、まちづくりなど、SDGsに関する視点を絡めた話題をご提供いただきました。今回、オンラインを含めて110名を超える方のご参加があり、講演会後には、演者を含めた意見交換会を開催し、今後の日本酒のあり方について、議論を深めることができました。今回のイベントは、以下のように記事として取り上げられました。



読売新聞オンライン
https://www.yomiuri.co.jp/local/nara/news/20250929-OYTNT50307/

朝日新聞web
https://www.asahi.com/articles/ASTB14QC7TB1POMB007M.html

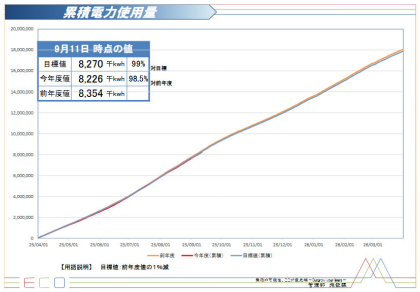
2025年度デジタルグリーンイノベーションセンター活動

開催日	イベント名	website	カテゴリー
2025.6.3	R7年度 第1回 NAISTグリーンエコノミーセッション（いい生活）	https://cdgw3.naist.jp/1347/	企業連携
2025.6.7	NAIST SDGs Action 2025 Vol.1~休耕田ワタ栽培プロジェクト2025 Part.1 ワタの種まき~	https://cdgw3.naist.jp/1335/	SDGs、企業連携、地域連携
2025.6.8	NAIST SDGs Action 2025 Vol.2~秋津穂の里 里山保全2025 Part.1 棚田の田植え~	https://cdgw3.naist.jp/1329/	SDGs、地域連携
2025.6.10	R7年度 第2回 NAISTグリーンエコノミーセッション（協和界面科学）	https://cdgw3.naist.jp/1364/	企業連携
2025.6.20	R7年度 第3回 NAISTグリーンエコノミーセッション（あずさ監査法人）	https://cdgw3.naist.jp/1393/	企業連携
2025.6.24	R7年度 第4回 NAISTグリーンエコノミーセッション（京セラ）	https://cdgw3.naist.jp/1462/	企業連携
2025.7.8	R7年度 第5回 NAISTグリーンエコノミーセッション（五洋紙工）	https://cdgw3.naist.jp/1473/	企業連携
2025.7.15	R7年度 第6回 NAISTグリーンエコノミーセッション（バッカス・バイオイノベーション）	https://cdgw3.naist.jp/1509/	企業連携
2025.7.20	NAIST SDGs Action 2025 Vol.4~秋津穂の里 里山保全2025 Part.2 棚田の草取り~	https://cdgw3.naist.jp/1485/	SDGs、地域連携
2025.7.22	R7年度 第7回 NAISTグリーンエコノミーセッション（アカリク）	https://cdgw3.naist.jp/1556/	企業連携
2025.7.29	R7年度 第8回 NAISTグリーンエコノミーセッション（トヨタコネクティッド）	https://cdgw3.naist.jp/1573/	企業連携
2025.9.2	R7年度 第9回 NAISTグリーンエコノミーセッション（インフォコム）	https://cdgw3.naist.jp/1604/	企業連携
2025.9.16	R7年度 第10回 NAISTグリーンエコノミーセッション（MonotaRO）	https://cdgw3.naist.jp/1609/	企業連携
2025.9.29	SDGs×CDGセミナー特別企画「酒ならシンポ～奈良から始まる未来の酒造り～」	https://cdgw3.naist.jp/1642/ https://cdgw3.naist.jp/1414/	SDGs、企業連携、地域連携
2025.10.4	NAIST SDGs Action 2025 Vol.5~休耕田ワタ栽培プロジェクト2025 Part.3 ワタ畑の草引き~	https://cdgw3.naist.jp/1618/	SDGs、企業連携、地域連携
2025.10.7	R7年度 第11回 NAISTグリーンエコノミーセッション（セイカ）	https://cdgw3.naist.jp/1624/	企業連携
2025.10.19	NAIST SDGs Action 2025 Vol.6~秋津穂の里 里山保全2025 Part.3 棚田の稲刈り~	https://cdgw3.naist.jp/1629/	SDGs、地域連携
2025.11.7	R7年度 第12回 NAISTグリーンエコノミーセッション（三菱電機）	https://cdgw3.naist.jp/1654/	企業連携
2025.11.29	NAIST SDGs Action 2025 Vol.7~休耕田ワタ栽培プロジェクト2025 Part.4 ワタ摘み~	https://cdgw3.naist.jp/1660/	SDGs、企業連携、地域連携
2025.12.1	SDGs×CDG セミナー特別企画「ダイバーシティウィーク」（全4回）①	https://cdgw3.naist.jp/1673/	SDGs
2025.12.2	SDGs×CDG セミナー特別企画「ダイバーシティウィーク」（全4回）②	https://cdgw3.naist.jp/1673/	SDGs
2025.12.4	SDGs×CDG セミナー特別企画「ダイバーシティウィーク」（全4回）③	https://cdgw3.naist.jp/1673/	SDGs
2025.12.5	SDGs×CDG セミナー特別企画「ダイバーシティウィーク」（全4回）④	https://cdgw3.naist.jp/1673/	SDGs
2026.2.24	第4回 NAISTグリーンエコノミーセミナー	https://cdgw3.naist.jp/1693/	企業連携

8. 最近の省エネ取組事例

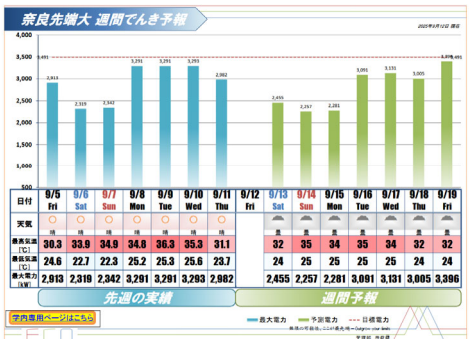
（1） 学内外向けwebでの電力使用状況の見える化

累積電力量

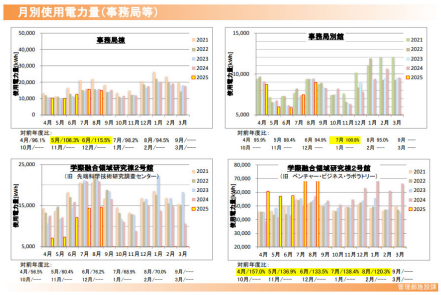




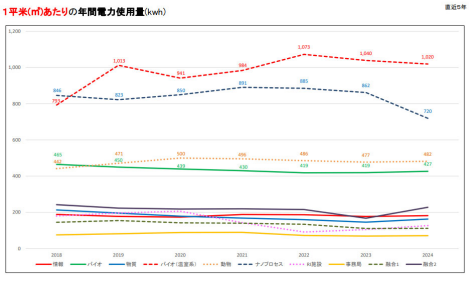
週間でんき予報



建物毎月別電力量（学内専用）



建物別㎡エネルギー推移（学内専用）



（2） 近年の主な省エネ関連工事

年度	主な省エネ工事	CO_2削減効果（推定値）	備考
H24	物質創成科学棟照明更新（約30台） 事務局棟等照明更新　（約400台） 大学会館照明更新　（約10台） 附属図書館空調更新 大学会館エアカーテン、天井扇設置 事務局棟西側窓断熱と外灯更新（7台）	14 t-CO2/年	
H25	大学構内電気室変圧器更新（約30台） 大学会館照明更新　（約40台） 大学会館空調更新	58 t-CO2/年	
H26	物質創成科学棟照明更新（約1，550台） 附属図書館等照明更新（約360台）	88 t-CO2/年	
H27	動物実験施設ESCO事業（空調更新他） 分子種苗温室・実験温室空調更新 学生宿舎照明更新　（約1，600台）	72 t-CO2/年	
H28	物質創成科学棟特殊空調設備更新 バイオサイエンス棟空調設備更新 物質創成科学講義棟空調設備更新	103 t-CO2/年	
H29	放射線実験施設空調改修 学際融合棟２号館等照明器具更新　（約550台）	42 t-CO2/年	
H30	学際融合棟２号館空調改修	14 t-CO2/年	
R01	物質創成科学棟空調改修 大学会館空調改修	16 t-CO2/年	
R02	物質創成科学棟空調改修	3 t-CO2/年	
R03	物質創成科学棟空調改修 事務局棟等空調改修	10 t-CO2/年	
R04	学際融合棟２号館空調改修	23 t-CO2/年	
R06	ゲストハウスせんたん改修（保育所設置）	2 t-CO2/年	
R07	バイオナノプロセス実験施設等空調更新	18 t-CO2/年	



2014



2015



2016



2017



2018



2019



2020



2021



2022



2023

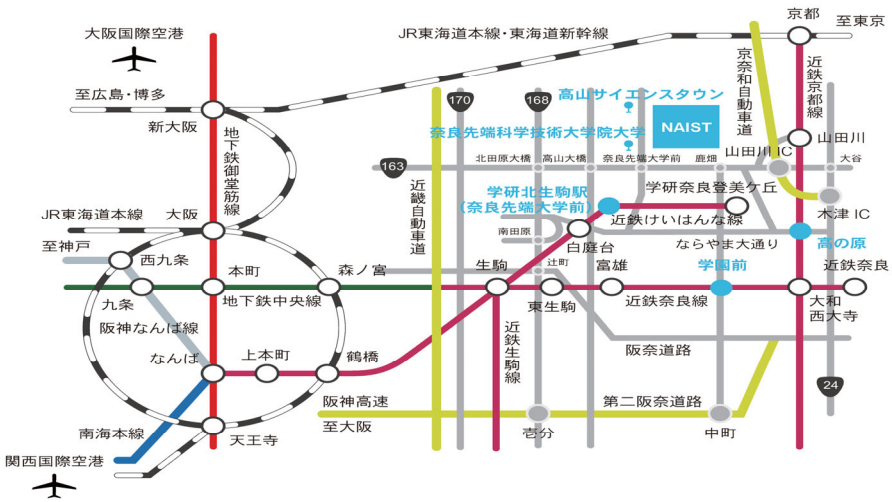


2024



2025





国立大学法人　奈良先端科学技術大学院大学
所在地　　〒630-0192　奈良県生駒市高山町8916番地の5
土地　　131,267 ㎡/　建築面積　　22,063 ㎡/　延床面積　　77,334 ㎡
編集　　国立大学法人　奈良先端科学技術大学院大学　https://www.naist.jp
　　管理部　施設課
　　※建築面積・延べ床面積は省エネ報告の特定部分面積としています。

Copyright ⓒ NAIST All right reserved